

「業務負担の軽減にむけた病床再編成への取り組み」

施設名：金沢医科大学病院 氏名：谷内 裕美子

【概要】

当院の病棟看護師の配置数は、病棟業務の特性・時間外勤務時間数などを考慮し、部署単位の配置基準数を決定し適正配置を目指している。一般病棟において1部署の病床数、診療科割り当て数にはばらつきがあり、平均時間外勤務時間数や看護職員満足度調査における「人員数」や「仕事量」の項目において病棟格差があり、公平な人員配置とはいえない現状にあった。適正に看護師が配置され、ゆとりと意欲を持てる環境を整えることを目的に、病棟の病床数・診療科割り当てを調整し、看護師の業務整理とマンパワーの確保につなげたいと以下の取り組みを行った。

(1) 2フロアの隣接した4病棟の病床再編により、看護師の業務負担の格差を縮小する。(2) 部署間の応援を積極的に行う。(3) 業務量、業務内容を可視化する。

結果、病床数とともに割り当て診療科数に変更となり、超過勤務時間の病棟格差が縮小し、看護職員満足度調査では「業務サポート」項目で上昇を認めた。しかし、看護師の業務内容の可視化には至らず、今後の課題となった。また、他職種とのタスク・シフティングやタスク・シェアリングを検討していきたいと考える。

【背景】

当院の病棟看護師の配置数は、入院基本料を基本として、病棟業務の特性・時間外勤務時間数などを考慮し、部署単位の配置基準数を決定し適正配置を目指している。当院の一般病棟では1部署の病床数は25～53床、診療科の割り当て数は1から4科とばらつきがあり、昨年度の看護職員満足度調査では「人員数」「仕事量」の項目において病棟格差が大きく、公平な人員配置とはいえない現状にあった。各診療科における重症度、医療・看護必要度には格差があり、また割当診療科が多いほど看護の専門性として広い知識が求められ、業務が複雑化し業務負担が増す状況にある。私は総務担当として、患者が安全で安心できるケアを受けるために適正に看護師が配置され、ゆとりと意欲を持てるように環境を整える役割にある。病棟の特性要素となる病床数・診療科割り当てを長期的な視点で調整し、看護師の業務整理とマンパワーの確保につなげたいと取り組みを行った。

【実践計画】

- 1) 病床再編成により病棟間における業務の負担格差が縮小される。
2フロアの4病棟における4人床1室と診療科割当の変更に向けて、院内調整を行う。私は、病床再編成に際して当該病棟師長の意見や希望を確認し、再編成以降は現場の不都合の確認や超過勤務時間や看護必要度の経過を追跡。また、職務満足度調査結果にて昨年度と比較し、再編成による業務負担の格差の変化を評価する。
- 2) 部署間の応援を積極的に行い、マンパワーが有効に活用される。
応援体制の窓口として、日々の必要な状況の確認、応援依頼を受けての要請、また応援の申し出からの応援先指定を継続し、毎月の応援状況を師長会で提示する。
- 3) 業務量、業務内容の可視化ができる。
年度内に、業務量調査により繁忙度を可視化に向けて、調査方法の選定を行う。

【結果】

1) 平成 30 年 10 月 1 日、4 病棟における 4 人床 1 室の割り当ての変更とともに、診療科割り当てが変更となる。

部署	病床数 編成前後	診療科 編成前後	病床利用率 4-9 月⇒10-12 月	平均在院日数 4-9 月⇒10-12 月	重症度,医療・看護必要度 4-9 月⇒10-12 月	超勤時間 編成前後の差
A	34⇒38	2 科	93.4⇒94.0%	16.8⇒11.6 日	43.3⇒38.8%	5.8h 増
B	51⇒47	4⇒3 科	97.4⇒92.7%	13.4⇒17.2 日	24.1⇒25.9%	1.9h 減
C	25⇒29	1⇒2 科	78.1⇒77.8%	16.4⇒14.5 日	24.1⇒23.1%	3.8h 増
D	46⇒42	3⇒2 科	91.4⇒87.7%	13.2⇒13.1 日	38.1⇒38.5%	3.8h 減

A-B 病棟間では、呼吸器外科病床をすべて B 病棟から呼吸器センターを有する A 病棟に移動し、術前・術後患者の病棟移動が最小限になり転棟に係る業務が削減された。B 病棟では新入院が減少し、入院対応業務が減少した。C-D 病棟間は、腫瘍内科が腎臓内科単科であった C 病棟へ移り、病床利用率が上昇した。D 病棟の平均超過勤務時間が 3.8 時間減少し、C 病棟では 3.8 時間増加した。(図 1)

2) 前年度に比し応援件数が月平均 13.3 回から 17.8 回と増加し(図 3)、満足度調査では「業務サポート」では全部署の満足度の上昇を認めた。(図 2)

3) IT 活用の業務量調査に関して、業者との面談を行ったが選定には至らなかった。

【評価および今後の課題】

一般病棟 4 部署における病床数、診療科割当を調整した病床再編成により、隣接する病棟間で業務負担を分け合い、格差が縮まった。部署からの依頼に対応した病棟間の応援により、職務満足度において昨年度と比較し「業務サポート」に向上が見られた。自部署以外での業務は不安もあるが、自部署を見直すきっかけにもなり、お互いの刺激となるように取り組んでいきたい。今後も現場支援として応援体制に積極的に関わり、業務負担の軽減につなげていきたい。今回、業務内容の可視化によって、業務整理の評価につなげることができなかつたため、今後の課題としたい。また、他職種とタスク・シェアリングやタスク・シェアリングを検討していきたいと考える。

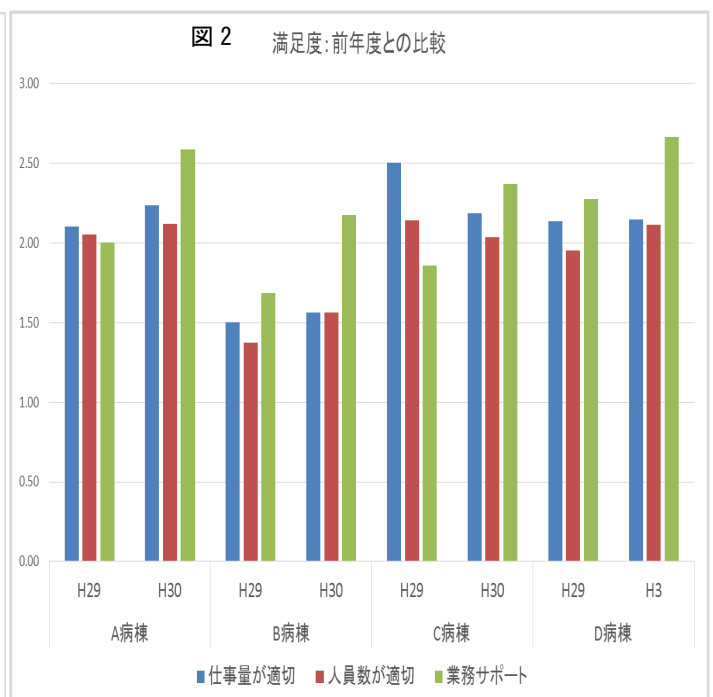
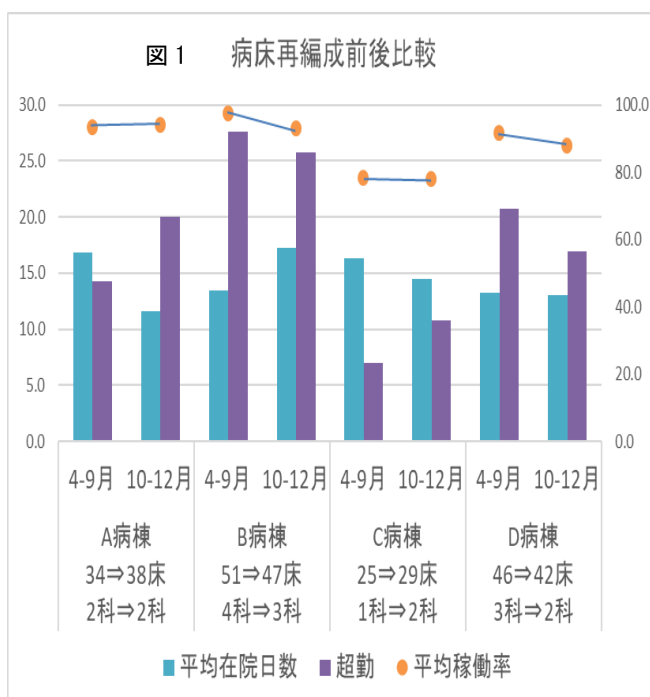


図3 部署間応援

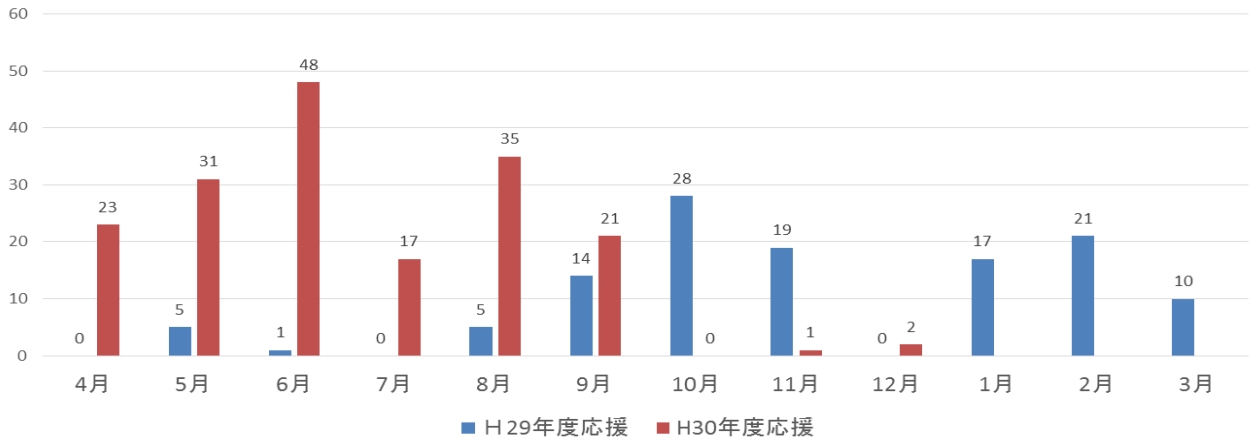
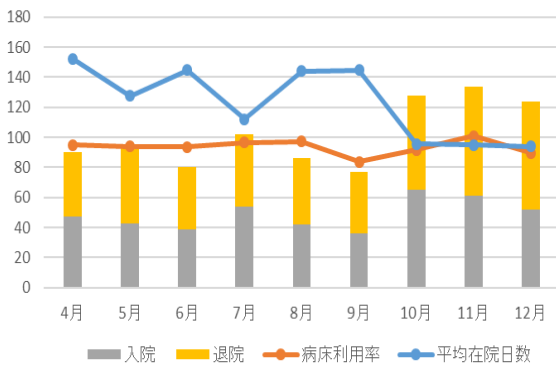
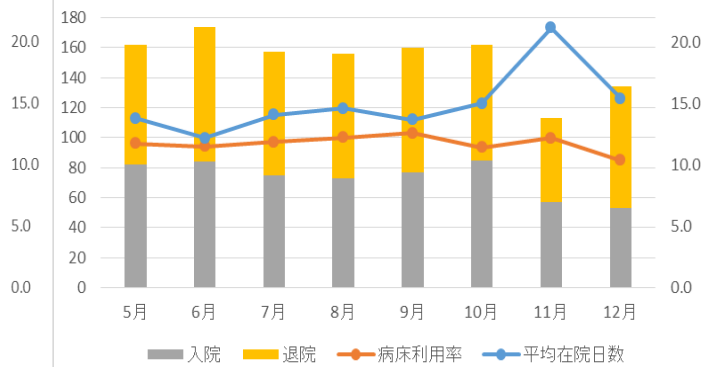


図4

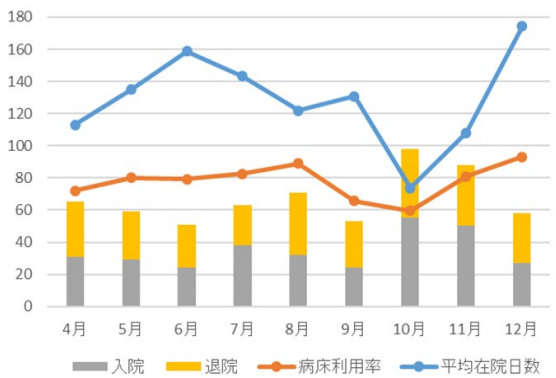
A病棟



B病棟



C病棟



D病棟

